



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041横浜市磯子区栗木1-22-3/TEL 045-774-9861洋光台
バプテスト教会内(蛭川明男牧師) / ●世話人代表 金子 敬
●事務局長 吉高 叶(栗ヶ沢バプテスト教会TEL 047-341-9459)

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

巻頭言

青野 太潮
あおの たしお

西南学院大学神学部教授

神学的営為への示唆を！

国際ミッション・ボランティアとしてルワンダに出発する前に、佐々木和之さんは西南学院大学にも来てくださって、これからご自分がなそうとしているお仕事の内容を、主として私たち神学部関係者に詳しく話してくださいました。

1994年のフツ系住民によるツチ系住民に対する大虐殺のことなど、ほとんどまったく知らなかった私は、自らの無知を恥じるとともに、その傷痕が生々しくトラウマとなって残っている渦中に飛び込んでいって――因みに「トラウマ」とは「傷」を意味するギリシア語で、新約聖書の中ではルカ10章の「よきサマリア人の譬え話」においてただ一度だけ34節で用いられているのですが――、そこで「癒しと和解」のプロジェクトに参加したい、と熱意を込めて語ってくださいました。大虐殺のあまりの苛酷さに驚愕し、佐々木さんに身の危険が及ぶというようなことはないのだろうか、と心配するほどでしたが、それだけに、これはしっかりと佐々木さんを支援していかなければいけない、と心深く思われました。

そしてその後に佐々木さんがリーチと

ともになしてくださっている奉仕のわざの「凄さ」は、マスコミも注目するほどに顕著なものとなりました。

ところでつい最近西南神学部では、最近の著書としては『犠牲のシステム 福島・沖縄』を著しておられる高橋哲哉先生(東京大学大学院教授)をお招きして講演「犠牲とは何か」を伺い、その後に私が先生と「対談」をし、さらにフロアからの意見をも交えて、このテーマについて考えるミッション・デーを開催いたしました。聴衆は200人を超え、補助椅子を用意しなくてはならないほどに、多くの人の関心を集めました。高橋先生も私も、神はみ子イエスを人間が犯した罪の贖いのための犠牲の供え物とすることによって、神と人間との間の和解を打ち立ててくださった、という「贖罪論」一辺倒のキリスト教のあり方には批判的なのですが、そこでは「和解」や「贖い」、「犠牲」や「償い」、といった言葉の意味内容が深く問われているように思われました。そしてルワンダで、まさに「和解」や「償い」という言葉に深い内実を与え続けてくださっている佐々木さ

んから、私たちの神学的営為に対しても大きな示唆が与えられることを心から願わずにはおれませんでした。佐々木さん、どうぞよろしくご教示いただけますよう

に、そしてご家族の皆さまともども、お元気でさらに尊い働きをなさり続けてくださいますように、心からお祈りいたしております。

佐々木和之

ささき かずゆき

嬉しい手応えを感じながら

加害者による心からの謝罪と償いの行為が、被害者の尊厳の回復にとって決定的に重要であることを、改めて確認しながら、歩んでいます。

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。日本への一時帰国が近づいてきました。1月3日から約4週間、日本各地での活動報告会、バプテスト連盟総会（天城山荘）、そして国際平和学会（三重大学）のために日本に滞在します。南は鹿児島から北は北海道まで、13都道府県を訪問することになっており、今回もとても忙しくなりそうです。なるべく多くの皆さまとお会いできるようにと願っています。

■新しい“償いのプロジェクト”の手ごたえ

ブゲセラ郡ンハラマ村に住む34名の元受刑者の方々は、週に2日のペースで、虐殺生存被害者イマキューレ・ムカニャルワニャさんのために家造りを続けています。日干しレンガの積み上げ作業がほぼ完了し、これから屋根を取り付ける作業に入ろう、といったところです。作業がある日には必ずイマキューレさんも現場にやって来られます。彼女と元受刑者の方々が挨拶の抱擁を交わしたり、一緒に作業をしている時など、それがあまりに自然なので、「この人たちは本当に虐殺の被害者と加害者なのだろうか」と思うほどです。

約1カ月前、日本から来た大学生2名と現場を訪問したとき、家造りグループの代表者であるジャン・ダマセニ・ニラ

ギレさんとイマキューレさんのお二人にお話を聞くことができました。まず一人の学生が、「なぜこのような活動を始めたのですか」と質問すると、ジャン・ダマセニさんは、「私たちは、彼女の尊厳を回復するためにこの活動をしています」と答えました。そしてその後、「この活動によって、けだものだった私たちも尊厳を取り戻すことができたと感じています。今はこの村の虐殺生存被害者の何人かは、私たちに尊厳を持って接してくれています…」と語ったのでした。

彼の言葉は、私がルワンダの活動を通して学んだ最も大切なことの一つを再確認させてくれました。それは、加害者による心からの謝罪と償いの行為が、被害者の尊厳を回復するうえで決定的に重要であること、そして、その償いの行為を通して、加害者自身も自らの尊厳を回復していく、ということです。私は、「やっぱりそうなんだ」、と心の中で頷いたのでした。



●イマキューレさんと加害者男性●

イマキューレさんには、私から「あなたやご家族に危害を加えた人たちが住むこの村に戻ってくることにに関して、恐怖心はないですか」と尋ねました。すると彼女は、家造りを続ける人たちに目をやりながら、「そうですね、でも私には30名以上の人たちがついていきますから」と答えたのでした。「恐怖心が全くない」と言えば嘘になるのでしょうか。しかし彼女の返答を聞き、償いの家造りに参加する人たちの誠実な思いが、彼女にしっかりと伝わっていることを感じたのでした。

■「平和構築」専攻コースの充実を目指して

前号でお伝えした通り、今年の5月、念願だったルワンダ初の「平和構築」専攻コースである「平和構築と開発」コースが、プロテスタント人文社会科学大学(Protestant Institute of Arts and Social Sciences/略称ピアス)の開発学部平和・紛争研究学科でスタートしました。

ピアスは創立3年目の新設大学ですが、9月に約400名の新生が入り、現在約1000人の学生たちが教育学部、開発学部、神学部の3学部で学んでいます。

これまでの5カ月間、主にルワンダ国立大学所属の非常勤講師数名の力を借りながら、第1期生6名(男性4名、女性2名)を対象に、「紛争解決概論」「組織における紛争マネジメント」「人権と開発」といった授業を進めてきました。少人数のコースだけに、学生たちは気が抜けません。私と学生たちの距離もこの間いっきに縮まりました。

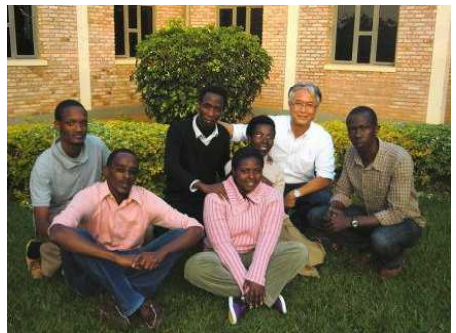
先日、私の研究室をふらっと訪れたジャン・ド・デュクンにN先生が担当する「人権と開発」の授業について感想を聞いてみました。すると彼は、次のように心のうちを明かしてくれました。「N先生の授業で、ルワンダには人権の観点から深刻な問題があることがよくわかった。でも、今声をあげたらどんな目にあうかと思うと、正直言って怖い…」

このジャン・ド・デュクンの言葉は、独裁的な傾向を強めている現政権下にある多くの人々の声を代弁するものです。実際には、このような言葉すら率直に言うこともできない、厳しい現実があることは、過去7年以上、NGOの職員、そして大学教員としてこの国で働いてきた私自身が日々ひしひしと感じていることでもあるのです。

「言っていることは、僕にも痛いほど良くわかる。僕たちはそういう厳しい現実の中で生きている。でも、その問題から目を背けたり、その問題について思考停止することだけはあってはならない。いつかはまだ分からないけれど、勇気を持って声をあげ、行動しなければならぬ時が来るだろうから…」私は彼にこのように答えました。

ルワンダで「本当の平和」について学ぶことは、ある意味とても勇気のいることです。その勇気を、「平和の主」イエス・キリストが学生たちと私に与え続けてくださるようにと祈ります。今週末には、「償いのプロジェクト」の現場であるキレヘに学生たちを初めて連れて行きます。大学から車で片道5時間かかりますが、和解と共生への歩みを地道に続ける村人たちから、学生たちはきっと大いに励まされ、「主にある希望」を受け取ってくれることでしょう。今から彼らの感想が楽しみです。

最後に嬉しいニュースをお届けして終わります。第2期生として約20名の学生たちが平和構築専攻コースに加わるこ



●平和構築専攻第一期生の学生たちと●

になりました！以前より志望者が増えたのは、こちらの熱意が学生たちに伝わってきたからかもしれません。今後授業科目が増えるため、スタッフの拡充が急務です。しかし、ルワンダでは修士以上の資格があり、大学教員という仕事に情熱を持つ人材がなかなか見つかりません。普通の高学歴ルワンダ人は、給与や福利厚生で条件の良い国際機関や国際NGOでの就職を志向するからです。そんな中、ルワンダ在住6年になる韓国人の友人が講師陣に加わってくれることになりました！彼は、韓国の大学とアメリカの大学院で国際関係を学んだ後、キリスト教系N

GOの職員としてカンボジア、アフガニスタン、ウガンダ、ケニア、ルワンダで働いてきた国際協力の大ベテランです。

さらに、最近になって初めて、学歴・経歴ともに申し分のないルワンダ人女性から就職願書が届きました。南アフリカ在住の方なので、まずはスカイプ（インターネットによる音声・映像通話ツール）で面接をすることになります。次いで皆さまに良い報告ができると良いのですが、どうなるでしょう。それでは、お体に気をつけてお過ごしください。ムラベホー（さようなら）！

(10月22日記)

「佐々木さんを支援する会」事務局から

帰国報告集会2012のご案内

佐々木さんを支援する会・報告集会

2012年11月17日（土）13:30～16:00

恵泉バプテスト教会 東京都目黒区中目黒3-13-29

最寄り駅：東急東横線・日比谷線 中目黒駅から徒歩8分
駒沢通り沿い・目黒区都税事務所隣り

報告集会in所沢

2012年11月18日（日）13:00～15:00

日本バプテスト連盟・所沢キリスト教会

埼玉県所沢市泉町1847-2/西武新宿線・新所沢駅から徒歩7分

報告集会in関西

2012年11月25日（日）14:00～16:30

日本バプテスト連盟・堺キリスト教会

堺市北区中百舌鳥町6-1040-44/南海高野線白鷺駅・出口1すぐ

- 郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会
- ホームページを是非ご覧下さい。 <http://rwanda-wakai.net/>
- 世話人会 金子 敬（古賀教会牧師）、蛭川明男（洋光台教会牧師）、
村上千代（日本バプテスト女性連合幹事）、吉高 叶（栗ヶ沢教会牧師）